

海峡を臨むミュージアムにて

海峡演劇祭は2010年から始まり、今年で8回目を迎えます。「門司港レトロ地区」に2003年に開館した「関門海峡ミュージアム(海峡ドラマシップ)」。その中にある多目的ホールは、旧YMC A門司港プラントのデザインを再現したものです。

海峡演劇祭は、この海峡を臨むミュージアムから、生の表現を発信していきこうと始まった、ちいさな集いの場です。

今年のテーマは「生きるということ(闘い)」

時に絶望的な状況、というものが、真綿のようにじわりと我々を締めつけてくる。

その時も、「生きるをおこなうという、それだけの行為が、大きな希望のエネルギーであるのではないのでしょうか。

排除に荷担しない、暴力を仕方ないと思わない、諦めることを諦める。

おいしいものを食べる時、おいしいと言い、楽しいことを楽しむ。毎日の暮らしを、日常を、「今」を、生きる、というそのものが、平和への活動であるように思えます。

「自由と平和」を、ただのお題目にせず、いかに具体的に「現実」にするか。

そこには「気付き」や「変化」があり、また思考や言葉になる前の身体からこぼれ出るニュアンスが関係しているように思えます。それを日常からの地続きで知らせてくれるのが演劇や映画であるのかもしれない。

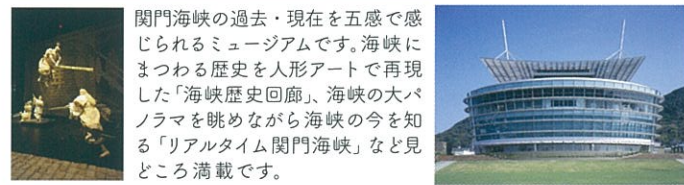
4つの作品たちと共に「生き抜くこと」を考えられたらと願います。会場でお会いしましょう。

海峡演劇祭実行委員長 谷瀬未紀

◇海峡演劇祭上演スケジュール

12/2(土) 16:30~17:40 ※開場は開演の30分前	ぐにゃり 「アクアリウム」
12/9(土) 10(日) 16:30~17:30 ※開場は開演の30分前	だらく館 「贋作・ミスワカナ」
12/16(土) 16:30~17:30 ※開場は開演の15分前	海峡プロジェクト 「風しもの村」朗読
12/23(土) 14:00~15:30 ※開場は開演の30分前	映画 「隣人のゆくえ」上映&トークショー

関門海峡ミュージアム 海峡ドラマシップ



関門海峡の過去・現在を五感で感じられるミュージアムです。海峡にまつわる歴史を人形アートで再現した「海峡歴史回廊」、海峡の大パノラマを眺めながら海峡の今を知る「リアルタイム関門海峡」など見どころ満載です。

ぜひ演劇祭の公演前後に、全館をお楽しみください。

各公演の「展示ゾーンチケット付」のご予約は海峡演劇祭事務局まで

◇住所 北九州市門司区西海岸1丁目3番3号
◇営業時間 9:00~17:00
◇料金 展示ゾーン大人500円・小中学生200円

◇お問い合わせは 海峡演劇祭事務局

TEL.093-331-6700

(関門海峡ミュージアム)

E-mail customersupport@kanmon-mojiko.com

[各公演の予約もできます]

詳しい情報は、海峡演劇祭 WEB ページでご確認ください。

http://t-etc.net/kaikyo_engekisai.htm



海峡演劇祭 2017

関門海峡ミュージアム(海峡ドラマシップ)

多目的ホールにて

12月2日(土)

~23日(土)

主催 海峡演劇祭実行委員会

12/2(土) **ぐにやり**

アクアリウム

【作・演出】谷岡 紗智
【出演】とうどりせいり、薔薇園 花江、渡部 光泰 (village80%)、他

12月2日(土)16:30~17:40
【開場】16:00
【料金】◎予約 1200円
◎当日 1500円 ◎学生 1000円
◎ドラマシップ展示ゾーンチケット付予約 1400円

【問い合わせ/チケット予約】
gunyari.gunyari@gmail.com
☎090-9609-1698

「産後クライシス」という言葉
を少し前から耳にするようになり
ました。「子どもが生まれ
ると女性は子どもを第一優先
に考えるように自然と体がそ
うなる」そう話す。人間の動物
としての本能だと思えます。
人間の動物としての本能、体
の部分は変わっていないのに、
生活する場所の環
境、社会はどのど
ん形が変わってき
てきます。
子どもを育てる
ための「本能」が
今の人間という
生き物の生き方
環境とズレてし
まい合わなく
なってしまう
たのではな
いからどうし
話です。

「ズレ」というのも心だと受け
入れることも出来ず、「ズレ」に
合わせてうまく変わることが
出来ず、苦しく思いながら、そ
れでも今の世界でなんとか家
族を愛して生きてきたらとい
うこと。その愛情が果たして幸
せに繋がるのかどうかももう
わからないけれど、それでも出
来れば、このお話の場合は、幸
せに繋がってほしい。そんなお
話です。



「土に生きる人間への讃歌(柳田邦男)」と評された、画文集がある。2005年に57歳で永眠した貝原浩が1992年からベラルーシを訪れて残した数々のスケッチと言葉。ベラルーシはチェルノブイリ原発事故によって死の灰が降ってきた「風しもの村」だ。畳大の和紙にうつされた汚染地帯に生きるものの姿。「たくさ心の友人」として零下20℃の地の人々を見つめた貝原氏の声を届けたい。



12/16(土) 海峡プロジェクト 貝原浩チェルノブイリスケッチ 「風しもの村」朗読

【構成・演出】たにせみき
【朗読】江口 之章(九州:役者組)、野口 和夫(演劇作業室 紅生姜)
【演奏】谷本 仰 (ヴァイオリン他)

12月16日(土)16:30 ~ 17:30
【開場】16:15
【入場料】1500円
ドラマシップ展示ゾーンチケット付
予約 1650円

【問い合わせ/チケット予約】
kita9tamayura@gmail.com
☎080-1711-5074

海峡演劇祭 2017

12/23(土) 映画「隣人のゆくえ」上映&トークショー

【監督】柴口 勲
12/23(土)14:00 ~ 15:30
【開場】13:30
上映後、柴口監督と出演者と
海峡演劇祭実行委員長の
トーク&ライブあり
【入場料】1000円
ドラマシップ展示ゾーンチケット付
予約 1200円
【問い合わせ/チケット予約】
isatoharuka@yahoo.co.jp

柴口勲と40人の中高生が作り上げたミュージカル映画「隣人のゆくえ」(2016年/77分)。空襲で焼け落ちた過去をもつ下関の梅光学院を舞台に生徒達が出演、作曲、演奏、振付、撮影、録音、照明のそれぞれを手がけた。第8回日本芸術センター映像グランプリ感動賞。第3回新人監督映画祭長編部門準グランプリ。その後、大林宣彦監督から「奇跡の映画と出逢った」と書き殴った手紙が届く。そして今夏には東京、横浜、名古屋、大阪とまよかの劇場公開された。

【柴口勲】
1967年生まれ。下関在住。42歳から映像制作を始めたサラリーマン。下関市芸術文化振興奨励賞。『月日』にて金子みすゞショートムービーコンテストグランプリ、『ひこうき雲』にてPFFアワード福岡賞、新人監督映画祭短編グランプリ、他。



「疲れた兵隊さん達が、ああ生かされて良かった そう思えるのが笑いです」

一九一〇年産まれ。父と一緒に安来節一座で回るが一人で河内家に弟子入りし、一度結婚するがすぐに離婚して玉松一郎とワカナ二郎を組む。夫婦漫才で女性上位漫才の祖となるが、ワカナが別な男に恋をした。...

〈だらく館〉
映画監督秋山豊が2002年、新派の独り舞台『夢二譚』の脚本を執筆。以来『竹久夢二異聞』『俣伝五稜郭』など、実在の人物を元に舞台の制作を始める。2010年より「独り芝居・芸人列伝シリーズ」の脚本、演出に着手。『贗作・トニー谷』『贗作・シミキン』『贗作・ミスワカナ』『贗作・一条さゆり』『贗作・圓朝』『贗作・太地喜和子』『贗作・松井須磨子』『贗作・デン助』と続いた同シリーズを上演する為の個人ユニット

12/9(土)10(日)16:30 ~ 17:30
【開場】16:00
【入場料】◎予約 2500円 ◎当日 3000円
ドラマシップ展示ゾーンチケット付予約 2600円
【問い合わせ/チケット予約】
darakukan@hotmail.co.jp

12/9(土)・10(日) **だらく館**

第十五回公演 独り芝居 芸人列伝 第三伝 「贗作・ミスワカナ」

【作・演出】秋山 豊 【出演】中川 圭永子



※各公演へのご予約をEメールでおこなう場合は、①氏名②ふりがな③チケットの種類④予約人数⑤緊急連絡先(電話番号)を明記をお願いいたします。